

横浜市大佛次郎記念館 平成 30 年度指定管理業務（外部評価）

	富岡委員	中島委員	古本委員	八ッ橋委員	米本委員
I 文化事業 (1)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観覧者数の大幅な増加を評価します。 テーマ展Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて、中身の充実した企画展であった。大佛次郎、大佛文学を掘り下げた内容であったことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ねこ写真展を継続するにあたり、内容の検討をしながら進めることを期待します。 テーマ展に出展している作品の図録を冊子として残す取り組みをされることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ展示の内容が充実し来館者増加につながったことを評価します。 ツイッターの活用が進んだことを評価します。 建築の魅力発見をスタートしたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ツイッターについては、大佛次郎に係る他者のツイートを積極的にリツイートすることも大切で、大佛ファンとの関係づくりや拡大へとつなげるよう期待します。また、インスタグラムの利用促進は、独特の施設景観を持つ当館にとって魅力の拡散になります。合わせて対応を進めてください。 「ねこ写真展」の成功や定着を踏まえて、ねこ以外のテーマを検討しさらに市内外で関係性を作っていくことのできる「場」や「団体」「人」の発掘に努め、ゆるやかな結合を拡大していくようお願いいたします。当館への関わりのバリエーションを増やすことで、施設を新たな文化的コモンズへと成長させていければと思います。 建築家・浦辺鎮太郎の建築の世界観を踏まえた建築アピールについて、開港資料館、神奈川近代文学館などとともに実施してみるのもいいと思います。大学の建築科への呼びかけや単位取得の一講座へと結びつけられないか検討いただければと思います。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的なSNSによる情報発信がなされ、記念館の周知及び来館者の増加につながった。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>—</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観覧者数が大幅に増加したことは、テーマ展示が充実していた成果として高く評価する。 記者発表等の頻度が増加し、多くの情報発信が行われたことを評価する。 近隣企業への働きかけによって、ねこ写真展の協賛社が増えたことを評価する。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無料開館における観覧者と、通常の観覧者との比較など、料金設定の水準等も考慮した検討を期待する。 ねこ写真展の人気は非常に望ましいものであるが、その一方で大佛次郎記念館の事業としてどのように位置づけられるものであるのか検討を期待する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ展示の観覧者数が大幅に増加している。テーマ展示3回すべてで目標観覧者数を達成し、どのテーマ展示も高い企画力と集客努力が感じられた。SNSなどでの情報発信も積極的に行われた。 高校生の就労体験もよい取り組み。 ねこ写真展の協賛企業獲得も評価できる。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入館無料デーは館の普及のために効果的に活用しつつ、有料入場者数を増やす取り組みも続けていただきたい。 鎌倉の大佛茶亭を遺族が売りに出している。大佛の重要な建物であり、春秋の公開は記念館のPRの場でもあった。状況推移を注視してほしい。
II 文化事業 (2)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドレス撮影会や建物解説等、建物の魅力を活かした取り組みを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア組織の立ち上げを期待します。 入館者増を見据え、神奈川文学館等、他施設との連携を図り、さらなる広報活動を行うことを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドレス撮影会や商業撮影等、当館建築の特徴を活かした取り組みを評価します。 ピンポイントですが、ミニブリオバトルに中高生の先輩を参加させたことは子ども達にとってならんかの成果があったのではないかと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「工場建築の名手」建築家・浦辺鎮太郎が設計した当館には、大佛の作品や人柄を踏まえた良さがあると思います。他所にない独自の建築の理解を進めることで、利活用上の箔がつく点もあると思います。建築そのものにもう一步踏み込んでみてはいかがでしょうか。 地域連携やボランティア組織の立ち上げについて、従来からの取組を踏まえ、その延長上にある成果を追求することは大変重要ですが、新たな係わりの切り口をさらに見出していくことも大切だと思います。構えなくてもよい難しくない取組を検討するようお願いします。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェディング撮影やドレス撮影会など、大佛次郎記念館の建物そのものの魅力を伝える事業の実施により、施設の利用の拡大が図られている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>—</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催の茶会を実施し、当館の魅力を発信したことを評価する。 ウェディング会社への営業活動の実施したことを評価する。 商店街の店舗や駅構内において、通年ポスター掲示が行われたことを評価する。 コンサートチケットが完売したことを評価する。 目標を大幅に上回る回数でイベントちらしが作成され、充実した広報活動が実施されたことを高く評価する。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンサートや茶会等のイベントが、今後も継続されることを期待する。 ボランティア組織の導入において、どのような役割や構成員を求めているのか、必要性の有無も含めた検討を期待する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドレス撮影が目標を上回る実施回数となったことは評価できる。レポート利用もあったようなので今後も継続してほしい。横浜市の観光PR映像など地元でどんどん取り上げてもらいたい。 QRコードでの朗読音声はよい取り組み。人手不足の折、機器をうまく使って工夫していきたい。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア組織編成を実現してほしい。展示の解説ボランティアなどがあれば大佛ファンの増加につながると思う。

横浜市大佛次郎記念館 平成 30 年度指定管理業務（外部評価）

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
III 施設運営	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マネーの導入を行ったことを評価します。 観覧者数の増加のための様々な施策を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室利用率を上げるためのアイデアを抜本的に見直すことを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間入館者が目標を大きくクリアした点、および昨年度比較でも 4,635 人増した点を評価します。 Suica の対象拡大と PayPay を導入し、利便性の向上とともに新たな取組みの可能性を図ることができた点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室の利用については活用事例を内部でさらに検討し、使い方の事例集を整理することをお勧めします。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間利用者が目標を大きく上回っている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ展示に合致したオリジナルグッズの開発が行われ、好評に販売されたことを評価する。 カプセルトイレ設置などを行い、エントランスの利用が促進されたことを評価する。 多様な研修への参加や視察等が行われ、職員の能力向上を図る機会が設けられたことを評価する。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室の利用率については大きな変化（増加）が見られないため、広報活動の方法や、想定する利用者像などについて、これまでとは異なる展開の検討を期待する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マネーの導入。時代にあった対応で評価できる。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和室の利用率が目標を下回った。来年は五輪もあるので外国人観光客らにもアピールしたい。
IV 維持管理	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> — <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害が増えている現状を踏まえ、防災対策を充分に取ることを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災意識を持って取り組んでいることを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ぜひ防犯対策について、防火・防災同様に対応できるよう準備してください。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物全体に清掃が行き届き、趣のある建物の魅力を伝えることが出来ている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2階にウェブカメラの設置し、館内の管理活動が効率化されたことを評価する。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> — 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な維持管理だったと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台風で被害を受けた博物館があるので、水害対策も万全にしていきたいです。
V 収支	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ショップの売り上げの増加について評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無料開館日数や入館料の検討を行い、収入を上げる方法について見直しを行うことを期待します。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入が伸びている点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに収入を伸ばし、少しでも施設活性化の費用の一部に充てていければと思います。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おさらぎ選書」の広告掲載社の増加により、指定管理料のみに依存しない収入源の確保の努力が認められる。 コスト削減の意識を高めた結果、予算額には及ばなかったが、前年に比べて水道光熱費の削減を行うことが出来ている。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修繕費が予算の 1.5 倍となっていて、突発的な修繕があったものと思われる。建物の老朽化による修繕については避けることが出来ず、計画的に予算を計上し行う必要があると考える。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おさらぎ選書」の広告掲載社数が増加したことを高く評価する。 ショップの売上げが目標を上回る結果となったことを評価する。 職員の超勤時間が減少したことを評価する。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 超勤が減少したことは望ましいことであるが、一方で業務量と人員配置のバランスが適正な状況であるかという検討を期待する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ショップ売り上げ、施設利用料収入ともに予算を上回ったことは評価できる。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> —

横浜市大佛次郎記念館 平成 30 年度指定管理業務（外部評価）

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
その他	—	—	—	・本館の立地や建造物を生かした取り組みについて、より魅力的な展開がなされることを期待する。	—

	富岡委員	中島委員	古本委員	ハッ橋委員	米本委員
総括	<p>・多彩なテーマ展を行っていますが、これからは一層テーマづくりが重要になります。切り口の一つとして、「大佛次郎と他の文学者との関わり」というテーマが有効であると考えます。他文学館との連携を積極的に図ることで内容の幅を広げていただきたいと考えます。また、全国文学館研修等の研修に参加することも有効だと思います。</p> <p>・一方で、職員の業務量の負担が心配されます。文学館の業務は残業が多くなりがちであり、ワークライフバランスと矛盾する部分が存在します。そのうえで業務改善を行う努力をしていただきたいと思います。</p>	<p>指定管理者として新規性・独自性を伸ばすことのできた一年間だったと思います。単に作品の解説に終わることなく当館の特徴を活かした当館らしい取組みが出来てきたのではないのでしょうか。</p> <p>大佛次郎の作品にはあたたかい温もりのような気持ちを感じることができます。また、大佛次郎本人や横浜にはモダンなイメージと重なる部分があります。そして当館の建築には、クラフトとインダストリアルが融合されたイメージがあります。ぜひこうした点を踏まえて様々な切り口から文学館としての企画を実施していただきたい。</p>	<p>・新しい視点で数々の取り組みを行うことにより、大佛次郎の魅力を来館者に伝える努力が認められる。その結果、来訪者が増加している点が評価出来る。</p>	<p>・観覧者数の増加をはじめとして、テーマ展示のみならず様々な面で非常に積極的な活動がなされ、その成果が得られていると思われます。今後に向けて、観覧者や地域住民との長期的な関係が結ばれるような、継続性のある企画運営が行われていくことを期待します。</p>	<p>新しいアイデアを実現し、毎年入館者数の増加につなげていることを高く評価します。今後も魅力ある展示企画と積極的な広報で大佛ファンを増やして下さい。</p>

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I 文化事業目標(1)	評価項目	H30年度計画		実施状況		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 作品、旧蔵資料及び関連資料の収集、保存及び展示公開	資料収集 大佛次郎関連資料の寄贈を随時受付し、情報収集に努め、適切な収集を行う。	■おさらぎ選書「資料収集」欄への掲載	実施	実施	・29年度受贈資料について、「おさらぎ選書」第26集の「資料収集」欄に掲載しました。			【成果】 ・大佛次郎研究を目的とし、資料について収集・保管・公開と適切に行いました。「おさらぎ選書」第26集を「天皇の世紀再考」をテーマに発行しました。 ・本年度より、資料の防塵防霉管理をI PM(総合的有害生物管理)の考え方に基づき実施しています。主体的にI PMの作業を行うことで、資料管理についてより意識を高めて取り組むことができました。 ・収蔵品展については「横浜」「猫」「天皇の世紀」について展示を行ったほか、『横浜フランス月間2018』期間中に「大佛次郎の雑誌でたどる1920年代フランス映画」と題し所蔵品の仏映画雑誌やポスターでコーナー展示を行いました。 ・資料の修理および修復については、予算制約のあるなかで実施するため、展示の方向性や緊急度を考慮のうえ計画的に行います。 ・収蔵資料データベースについて、運用開始から4年が経過し、操作性や使い勝手について検証の時期にきています。	
		■毎日2回の点検、記録、調整の実施	毎日2回点検、記録、調整	実施	・開館・閉館時、点検、記録、調整を実施しました。 ・特別書庫内使用の出入庫表への記録の実施				
	資料保存 ・貴重な資料の管理や保護に注力し、自筆原稿等特に貴重な資料の管理に細心の注意を払う。所蔵資料を後世に継承するため、資料の劣化を防ぎ良好な状態を保つ。温湿度管理の徹底と中性紙箱に収める等の方法で資料の保全を行う。	■特別書庫内使用の出入庫表への記録	実施	実施	・燻蒸に替え、総合的有害生物管理(IPM)を導入し、専門業者による書庫内防塵防霉作業 1回、職員による同作業 1回実施しました。職員全員がIPMの考え方を学ぶ研修を受講しました。 ・月1回の資料整理 実施 ・藤田嗣治の書籍修復およびオープンリールに録音された講演録のデジタル化を行いました。				
		■年1回の燻蒸→防塵防霉	年1回	実施					
		■月1回の資料整理	月1回	実施					
	・専門的な観点からの収蔵資料整理	■必要な資料の修復	実施	実施					
		■専門的な観点からの収蔵資料整理	実施	9月より外部スタッフ1名が従事					
	展示公開 (1)常設展(収蔵品展) 「大佛次郎の生涯と作品」にスポットを当てた収蔵品展を展示室で実施	■年間を通じて順次展示替えを実施	実施	実施	・「大佛次郎-人と作品-」と題し展示を行いました。				
		■年3回の企画展に合わせた内容の見直し	実施	実施	・「横浜」「猫」「天皇の世紀」等、6月、7月、11月にコーナーごとの展示替えを実施しました。				
		■年1回の展示替えの実施	年1回	実施	・大佛次郎が見出した日本画家・佐多芳郎にスポットをあて、大佛作品の挿絵や交流について紹介しました。				
(2)愛蔵品展示コーナー 大佛次郎の交友関係に焦点をあて、関係する旧蔵資料等を愛蔵品展として記念室前展示コーナーで展示	■1階ロビー展示の実施	随時実施	実施	・パネルに日焼けが生じたため12月に更新を行いました。					
	■1階ロビー展示の実施	随時実施	実施						
資料公開(展示を除く) (1)閲覧室での図書閲覧	■閲覧室での図書の閲覧の実施	実施	実施	・閲覧室での図書閲覧の実施					
	■「おさらぎ選書」に目録を掲載	実施	実施	・目録の掲載					
(3)ホームページに収蔵資料目録を掲載、検索アイテムの拡大	□ホームページ上で新規公開するデータ数	年400件以上	656	A	・S34-48年刊行の自著についてデータ656件を追加し、HPで公開しました。				
	□レファレンスサービス件数	年50回以上	89	A	・年間レファレンス 89回。海外からの来館者を含め、幅広い層からの照会に対し迅速かつ信頼に足る回答を心がけました。				

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I文化事業目標(1) 2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	評価項目	H29年度計画		実施状況		実施状況		評価		
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
5	指定管理者提案(要旨) 大佛次郎の作品等に関する調査研究成果の展示、出版、講座・講演等による社会への還元 (1)テーマ展示の実施	□テーマ展示 実施回数	3回	3回	チェック A	・テーマ展示の実施:3回 ・テーマ展示Ⅰ～Ⅲ展示観覧者数:26,258人(昨年度比3,487人増)		【成果】 ・大佛次郎記念館開館40周年にあたり、3回のテーマ展示に加え、関連イベントや他機関との連携による催しを開催し、施設のプレゼンスを高めました。 ・すべての展示で目標観覧者数を達成しました。 ・展示解説に加え建物ミニ・ミニトークを定例でスタートさせました。 ・テーマ展示Ⅰ「大佛次郎記念館の40年 1978～2018」では、開館から40年の歴史と過去の展示を紹介し、大佛次郎の著作と生涯を、漫画家・横山隆一画「大佛次郎作品道中図録」とともにたどる展示を行いました。 ・私の好きな大佛次郎の一文32点をロビーで展示しました。本の表紙を開いて一文を読んでいた趣向が楽しいと好評でした。 ・5/1-3 期間中入館者数 4,702人 ・佐多芳郎画「献花」「螢」及び岩田藤七作ラサーズ2点を和室で観覧いただきました。 ・展示解説 9回 164人 ・建物ミニ・ミニ・トーク 7回 111人	【評価できる点】 ・テーマ展示の観覧者数が目標を大きく上回ったことを高く評価します。前年度と比較しても3,000人以上増加しており、来館者増加に向けた工夫や取組が着実に実行された成果と考えます。各テーマ展ともに、それぞれの切り口から、大佛次郎という作家の魅力を伝える内容となっていました。 ・テーマ展示Ⅲ『天皇の世紀』—取材旅行が語るもの—では、大佛の肉声を再生するコーナーの設置や映像の上映を行い、また、「私の好きな大佛次郎の一文」では、本を模した形式の展示を行うなど、限られたスペースの中で展示方法の工夫を行った点を評価します。 ・継続したブログの更新や、昨年度開設したSNSのアカウントを活用し、積極的な情報の発信を行ったことを評価します。	
		□観覧者数	16,500人	26,258	A	・観覧者数:12,710人(目標比205%)				
		□入館者数	6,200人	12,710	A	・大佛次郎記念館開館40年を記念し、開館から40年の歴史と過去の展示を紹介し、大佛次郎の著作と生涯を、漫画家・横山隆一画「大佛次郎作品道中図録」とともにたどる展示を行いました。				
		■公募「私の好きな大佛次郎の一文」のパネル展示	実施	実施		・私の好きな大佛次郎の一文32点をロビーで展示しました。本の表紙を開いて一文を読んでいた趣向が楽しいと好評でした。 ・5/1-3 期間中入館者数 4,702人				
		■40周年記念日を入館無料デーとして祝う(5月1日～5月3日)	実施	実施		・佐多芳郎画「献花」「螢」及び岩田藤七作ラサーズ2点を和室で観覧いただきました。				
		■収蔵品を和室で特別公開	実施	実施		・展示解説 9回 164人 ・建物ミニ・ミニ・トーク 7回 111人				
		■テーマ展示解説 実施	各月第2土曜日	実施		・展示解説 9回 164人 ・建物ミニ・ミニ・トーク 7回 111人				
		□ミニトーク～建築の魅力発見～ 実施	期間中4回	7回	A					
		■フランス月間とリンク(追加実施)	実施	実施						
		□入館者数	5,400人	7,792	A	・観覧者数:7,792人(目標比144.3%) ・文壇きってのスポーツマンとしての大佛次郎にスポットをあてた展示を行いました。関連イベントとして10/14に「山手&根岸ウォーキング」を開催し、横浜山手テニス発祥記念館や馬の博物館など大佛作品ゆかりの場所をめぐり、丁寧な解説とテーマ性あるツアーが好評でした。 ・エッセイ朗読をYouTubeで提供する仕組みや、ラグビーワールドカップ開催部局との連携、市内のゆかりの場所をめぐるウォーキングなど、さまざまなイベントを実施しました。				
		6	(2)テーマ展示2 大佛次郎記念館開館40周年記念「I love スポーツ。大佛次郎～スポーツマン作家10のストーリー」	■大佛とスポーツにまつわるエピソードを紹介し幅広い層への認知度アップをはかる	実施	実施				
				■テーマ展示解説 実施	各月第2土曜日	実施				・展示解説 6回 47人 ・建物ミニ・ミニ・トーク 4回25人
□ミニトーク～建築の魅力発見～ 実施	(計画書に記載なし)			実施						
□入館者数	4,900人			5,756	B	・観覧者数:5,756人(目標比117.5%) ・明治維新を緻密な手法と独自の視点で紡いだ史伝「天皇の世紀」を、取材旅行を軸に134点余の資料で紹介				
(3)テーマ展示3 大佛次郎記念館開館40周年記念「天皇の世紀」取材旅行が語るもの(仮)	■「おさらぎ選書」第26集の資料紹介と運動した展示	実施	実施		・展示解説 4回 55人 ・建物ミニ・ミニ・トーク 4回25人 ・1/26-2/27TV映画「天皇の世紀」ロビーにて放映					
	■展示解説開催	各月第2土曜	実施							
	□ミニトーク～建築の魅力発見～ 実施	(計画書に記載なし)	実施							
	■関連事業として講演会開催	実施	実施		・「鞍馬天狗のいない明治維新 大佛次郎「天皇の世紀」再読」11月24日(土)、成田龍一(日本女子大学教授) 神奈川近代文学館にて実施 ・入場者数 110名					

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

I 文化事業目標(1) 2 作品及び大佛次郎に関する調査研究及び情報の集積	評価項目	H29年度計画		実施状況		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	チェック	説明	自己評価	行政評価
7	「おさらぎ選書」の発行	■「おさらぎ選書」第26集 「大佛次郎『天皇の世紀』再考」 発行予定年月:平成30年11月	実施	実施	チェック	おさらぎ選書」第26集 11月17日発行 ・「天皇の世紀」の旅行日記、エッセイのほか、当館研究室職員による旅行日記に関するリストならびに文章を掲載しました。 ・「開館40周年に寄せて」として横浜市長の挨拶文を掲載しました。			(評価は前ページに記載)
	■ブックレット「スポーツ・エッセイ」(平成30年度作成)を販売(追加実施)	実施	実施		・ブックレット「I Loveスポーツ。スポーツエッセイ集」講演録生地のままに」を制作、販売				
	情報の集積と発信 (1)一般紙誌の掲載につながる話題の提供と積極的な働きかけ。	□テーマ展を中心に記者発表	年3回以上	実施 10回	A	・記者発表10回 目標回数を大きく上回る情報発信を行いました。			
□PRタイムスを活用しWEB掲載を増やす		年5回以上	PR times 11回	A	・PR TIMESでの発信11回				
9	(2)ウェブ紹介による来館の動機づけ	■フェイスブック、ツイッターを使った積極的なSNS発信	実施	実施		・開館40周年で寄せられた来館者からの声をTwitterで紹介しました。			
		□公式ホームページ情報更新	月3回以上	52	A	・月平均4.3回			
	(3)ブログやSNSを用いたタイムリーな発信	□ツイッターでの発信	月5回	547	A	・月平均45.6回、フォロワー数188人、前年度比89人増 記念館の情報に留まらず、港の見える丘公園の草花の話題などを写真と合わせて情報発信を行いました。フォロワー数が年度当初の約2倍になりました。			
		□フェイスブックでの発信	月5回	79	B	・月平均6.6回			
■公園内の話題、山手西洋館の行事、公園内でのウェディング撮影への積極的な言及	実施	実施		・記念館の展示やイベントに留まらず、即時性のある話題はツイッターで、記事性のあるものはブログでの発信に注力しました。					

テーマ展示ⅡおよびⅢの内容に沿った冊子を作成し販売することで、大佛作品を手にとっていただきやすくなりました。

・タイムリーな広報展開を意識し、目標を大きく上回る頻度で情報発信を行いました。

・SNSからの発信を強化しました。即時性のあるツイッターを中心にコンスタントな情報発信を行い、すべての項目で目標数値を上回りました。特にツイッターはフォロワー数が年度当初の2倍近く増え、記念館の周知につながりました。

【課題】
・酷暑の影響で夏季の来館者数が落ち込み、収支への影響がありました。季節・天候に影響を受けない企画や無料開館の設定などを検討します。
・より若い世代にユーザーが多いInstagramからの情報発信について、課題を整理したうえで導入を検討します。

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

1 文化事業目標(1) 3 各種文化的行事の実施	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		実施状況		評価	
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
10	各種文化的行事による大佛次郎及び作品の普及啓発 (1)大佛次郎文学散歩→山手&根岸ウォーキングに代替	□開催数	年1回	年1回 実施	B	・大佛作品ゆかりの場所をたどりながら、横浜におけるスポーツの歴史を振り返るウォーキングツアーを開催しました。当館研究室職員による踏み込んだ解説とテーマ性あるコース設定に、参加者の97%が「満足」「やや満足」とアンケートで回答する充実した催しとなりました。 ・参加者31人(応募38人)	【成果】 ・テーマ展示Ⅱ「Ilove スポーツ。大佛次郎」関連イベントとして大佛作品ゆかりの場所と横浜・山手エリアのスポーツの歴史を振り返るウォーキングツアーを開催しました。大佛次郎作品の普及という目的のため、きめ細やかな調整を重ねて、満足度の高い企画を実現したことを評価します。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2019」の入館者数が目標を1,000名以上上回りました。入館者数は、昨年度と比較しても1,500名以上増加しており、大佛次郎記念館の企画として定着、集客の目玉のひとつとして成長させたことを評価します。また、昨年度の結果をふまえ、公募作品の応募数を見直したほか、展示スペースの拡大を図る等、事業内容の改善が行われたことを評価します。	【評価できる点】 ・テーマ展示Ⅱの関連イベントとしてウォーキングツアーを開催しました。ウォーキングを目的とした参加者に対しても大佛作品に触れるきっかけを提供しました。大佛次郎作品の普及という目的のため、きめ細やかな調整を重ねて、満足度の高い企画を実現したことを評価します。 ・「大佛次郎×ねこ写真展2019」の入館者数が目標を1,000名以上上回りました。入館者数は、昨年度と比較しても1,500名以上増加しており、大佛次郎記念館の企画として定着、集客の目玉のひとつとして成長させたことを評価します。また、昨年度の結果をふまえ、公募作品の応募数を見直したほか、展示スペースの拡大を図る等、事業内容の改善が行われたことを評価します。	
		□参加者数	21人	31人					B
	(2)大佛次郎賞記念講演会 朝日新聞社との共同主催で、大佛次郎賞受賞記念講演会を開催	□開催数	年1回	講師都合で未実施		講師の都合により令和1年度事業となりました。	【更なる取組を期待する点】 ・「大佛次郎×ねこ写真展」は、今後の事業企画にあたり、定着の一方で、新鮮さを失わないよう、企画を工夫し続けるよう努めてください。 ・今後の事業展開の検討にあたっては、既存の枠組のみに捉われない切り口の事業を展開する等、引き続き新しい発想で企画・立案をしていただくことを期待します。		
		□参加者数	240人	-					
	(3)大佛次郎研究会公開発表会	■横浜市開港記念会館講堂での開催	実施	-					
		■大佛次郎研究会に対し、会議室の利用、選書への論文掲載等を支援	実施	実施		・5月26日(土)「大佛次郎研究会公開発表会」の共催 ・同発表会で研究員職員が「大佛次郎初公開日記をひもとく〜前後の出発点〜」として講演 ・11月の公開発表会は開催がありませんでした。 ・記念館会議室の優先予約や広報物の作成代行・配布を通じて同会の活動を支援しました。			
	(4)その他 大佛次郎記念館開館40周年記念「特別展示@和室」の実施(再掲)	■収蔵品の中から佐多芳郎の日本画と岩田藤七の水指を和室に展示	実施	実施		・佐多芳郎の日本画「献花」「螢」及び岩田藤七作のガラスの水指2点を和室に特別展示(再掲)			
		□和室公開 春の桜、晩秋の紅葉の時期に和室を公開し、来館者に景色を楽しんでもらうと同時に、大佛の作った俳句等を展示することによる啓発	年2回	年2回	B	・春3月31日(土)~4月8日(日)9日間、秋11月27日(金)~12月14日(日)(18日間) ・春、秋とも季節にちなんだ大佛次郎の俳句を展示しました。(春6点、秋5点) ・来場者数(期間中来館者数) 春:991人、秋:752人			
	11	施設及び山手エリアの活性化 (1)和室公開(年2回)	□ブログ・ツイッターで発信	年4回	ブログ3回、ツイッター4回以上	B	・ブログ3回、ツイッター4回以上		
			■会場で書籍・グッズ販売、施設紹介を実施	実施	実施		・書籍、グッズ販売の実施 ・4月8日(土):489名、10月6日(土):338人		
(2)大佛茶亭公開(年2回)	■テーマ展示毎の茶亭の展示コーナーの展示替え	実施	実施		・テーマ展示に沿ったミニ展により記念館のPRを行いました。				
	□読書に親しむイベントとして開催 開催回数	年1回	年1回 実施	B	・北方小学校児童296名を対象にミニ・ビプリオバトルのデモンストレーション実施 ・中区中学校校長会で事業説明を実施 ・市内国公立・私立小学校27校6,500枚募集チラシを配布 ・ミニ・ビプリオバトル参加者 7人、見学者42人 ・初の試みとして中高生図書研究部の3人をゲストバトラーとして招聘し「旅」をテーマにバトル展開。				
(2)夏休み子どもアドベンチャー	□開催回数	年1回	年1回 実施	B	・8月16日(木)、17日(金) 各2回(計4回) 大佛次郎の童話「白猫白吉」の感想画を描いてもらうイベント。感想画はサロンに展示したほか、当館年賀状にデザインしました。				
	□子どもたち・保護者の入館を促進 参加者数	28人	44人	A	・参加者 子ども44人 保護者41人 ・高校生職業体験2人を受け入れ、朗読係やイベント補佐に活動してもらいました。				
12	(3)感想画展等、小中学生無料化に伴う、親子の来館を促す企画の実施	□実施回数 夏休み子どもアドベンチャーとして実施予定(再掲)	年1回	年1回 実施	B	・第3回となる「大佛次郎×ねこ写真展2019」では今回より写真と18文字のコメントのコラボレーションを楽しむ趣向としました。会期中は前年度来館者数を1,000人以上上回る4,610人が来館し、「毎年楽しみ」という声もあるとおり、着実に定着した事業に育っています。また大佛作品と猫・大佛次郎と猫についても紹介し記念館への理解を促しました。			
		■県博物館協会主催ミュージアムミッション2018に参加し来館者増を図る	実施	実施		・7月21日(土)~8月31日(金) 参加者 85人 ・記録的な猛暑によるスタンプラリー不振とルールの複雑化が影響し、参加者数が大きく落ち込みました。			
(4)ミュージアム・クイズラリーへの参加による参加者増	□参加者数	300人	85人	C					
	□大佛の愛した猫を切り口に、新規来館者層の開拓 「大佛次郎×ねこ写真展2019」実施	年1回	年1回 実施	B	・2月26日(火)~4月14日(日) ・来館者数:4,610人(目標比131.7%) ・今回より応募写真にコメントを18文字で付し写真とコメントのコラボレーションを楽しむ趣向としました。「いまじねーしょんねこ2019」では、大佛次郎「帰郷」とねこ写真とをりあげて展示し、また大佛次郎と猫のかかわりをパネルで見せ、愛猫家・大佛次郎をアピールしました。 ・ねこ写真展 応募点数484点、190人 ・賞品協賛社が1社増え、人気投票を盛り上げました。				
その他の事業(観光客や新規来館者を呼び込む企画) 「猫」企画の実施	□「大佛次郎×ねこ写真展2019」入館者数	3,500名	3,074	A					
					【課題】 ・小学生を対象としている「ミニ・ビプリオバトル」については、「青少年の読書活動の推進」として、対象年齢を拡大する検討が必要ですが、リピーターにも満足してもらえる工夫を加えていくことを検討します。				

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅱ文化事業目標(2)	評価項目	H30年度計画		実施状況		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供	13 記念館の雰囲気や建物の魅力を生かした利用の誘致 (1)茶会(学校茶道部等)への和室利用促進	■学校茶道部へ利用案内の送付、広報実施	実施	実施	実施	チェック ・「レトロな洋館で楽しむ クリスマス茶会」学校茶道部誘致に替えて実施 12月16日(日)10:30～1席400円 ・和室の茶会利用を促進するため、地元企業2社の協賛を受け約10年ぶりの主催茶会を開催しました。「クリスマス」をテーマに、海に見える茶室(和室)の魅力を来館者に伝えることができました。 ・参加者 79人 ・茶会招待状と施設利用案内を近隣中学校6校に送付 ・ウェディング撮影による利用2回(外観) ・ウェディング会社への営業活動 5社	【成果】 ・本格的な茶室のある建物としての紹介を目的に、約10年ぶりの主催茶会を開催し、茶室としての良さや記念館の雰囲気を楽しんでもらう機会となりました。 ・ウェディング会社を訪問しロケーションフォトを案内しました。また、撮影利用があった場合はツイッターとブログで紹介し広報に活かしました。	【評価できる点】 ・ドレス撮影が目標を上回る実施回数となったことを評価します。撮影体験の情報をSNSで発信することにより、建物の魅力を活かした施設の利用促進に取り組むことができました。 ・和室の利用促進のためイベントの開催や団体への誘致活動を行ったことを評価します。より効果的な手法を検討し、近隣の企業等との連携によりそれを実現したことを評価します。	
		■利用案内の送付	実施	実施	・利用のあった際は即時Twitterで発信しました。				
	14 会議室、和室の利用促進 建物の魅力を活かした撮影利用や、展示利用等を誘致します (1)ウェディング撮影	■ウェディング撮影を近隣のホテルや結婚式場と連携しての誘致、公園ウェディング撮影の周知	実施	実施	・ドレス・着物撮影等の利用 9回 ・卒業式の袴レンタル会社への撮影利用案内の送付 4社 ・「赤いぐつ」号バス車内映像、横浜観光コンベンションビューローウェブサイトの撮影があり、施設の周知につなげました。	・前年度から継続して利用のある着物ドレス体験撮影のほか、新規で着物の撮影のリポート利用がありました。 ・横浜市の観光PR映像の撮影が行われ、施設の周知につなげました。	【更なる取組を期待する点】 ・建物が持つ魅力等、施設のポテンシャルを活かし、大佛次郎記念館に興味を持つことに繋がるような活動に、引き続き積極的に取り組むことを期待します。		
		■ホームページ・SNSによる広報	実施	実施					
	(2)ドレス撮影	□ドレス撮影会等、商業撮影の誘致	年5回以上	ドレス等撮影利用9回、商業撮影2回	A				
	(4)学校等の利用促進 ポランティアへの会議室の減免提供、小学生ミニ・ピリオパトル参加校への会場としてのサロン提供	□小学校内ミニ・ピリオパトルの会場利用提供	1校	1校	B	・北方小学校校内決戦へ2Fサロン会場提供			
	(5)研究者団体への場の提供 大佛次郎研究会、フランス経済史研究会の活動支援	■大佛次郎研究会発表会の共催	実施	実施					
	(6)市民文化団体への場の提供 天皇の世紀を讀心会の活動支援	■メンバー募集広報協力	実施	実施					
	(7)その他	■撮影等、特徴ある利用実績を記録し、アピールに利用	実施	実施		・特徴ある利用は、即日Twitterで発信し、またブログで写真を交えて紹介しました。(落語会、朗読会、ピリオパトル、きもの撮影、ドレス撮影等)			
		■主催または共催で、会議室の連続利用につながる展示事業の開催	実施	実施		・「山手ユースギャラリー」(共催)2月16日～22日 会議室利用 ・「大佛次郎×ねこ写真展2019」2月26日～4月14日 会議室利用			
		■大佛次郎記念館 ミニトーク～建築の魅力発見～の実施(再掲)	実施	実施		・建物の魅力を来館者により知ってもらうため、原則第3土曜日の14時に開催しました。			
	15 リポート利用に向けた方策 (1)和室、会議室での附帯設備導入等による利便性向上	■附帯設備の充実	実施	実施		・「大佛次郎×ねこ写真展2019」開催期間の和室半額プロモーションを展開しました。	・「建物ミニ・ミニトーク」を定期的に開催しました。40周年事業としてスタートしましたが、好評につき次年度も継続実施の予定です。 ・ねこ写真展期間中、会議室の一般貸出が不能になるため、同時期の和室を半額で貸し出すプロモーションを実施しました。 ・和室の特徴的な利用については随時SNSで取り上げました。		
	(2)会議室での自主事業の実施(簡易的な展示)	□「大佛次郎×ねこ写真展2019」実施	1回	年1回 実施	B	・「大佛次郎×ねこ写真展2019」2月26日～4月14日(再掲)			
(3)会議室の利用者の意見を聞き設備面・サービス内容等を改善。	■改善を実施し、実績をホームページやSNSを通じ発信	実施	実施		・和室の踏み台についてブログで紹介したほか、ツイッターでも会議室・和室の紹介のなかで附帯設備について紹介しました。				
(4)ホームページでの情報提供。	■ホームページの「和室・会議室空き状況」ページの円滑な運用	実施	実施		・ホームページ内「和室・会議室空き状況」の随時更新を行いました。				

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅱ文化事業目標(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		評価	
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
4 施設の有効活用及び文化団体等への活動の場の提供	ティールーム「霧笛」との連携 (1)相互割引の継続実施及び団体利用客への霧笛紹介。	■チケット半券ーレシートの提示による相互割引の継続	実施	実施	チェック ・相互割引の実施継続 ・和室・会議室の利用案内表に相互割引やケータリングの情報を追加しました。 ・横浜みなとみらいホールとの共催事業においてコーヒーサービスを付けてチケットを販売し喫茶利用につなげました。 ・フランスをイメージした3色(トリコロール)シロップをかけたかき氷「大佛フラッペ」を夏季限定での販売がありました。 ・ホームページで情報継続掲載 ・31年度テーマ展示 I の連携メニューの検討・調整をすすめました。	【課題】 ・学校茶道部への和室利用促進について関係者からのアドバイスを受けたところ、学校外へ出て行くことが難しいという意見もあり、クリスマス茶会として開催し、茶室のプロモーションとしました。「毎年、茶会をやつて欲しい」という声も多く、過度な負担なく継続して開催できる仕組みを検討します。 ・施設利用について、貸館の利用方法や利用例を引き続きSNS等で紹介することで、施設利用を広げます。	(評価は前ページに記載)
		■団体客や貸館利用者へティールームの利用の呼びかけ	実施	実施			
		(2)記念館活性化プロジェクトで開発されたメニューの継続販売。	実施	実施			
		(3)広報協力 当館広報物への情報掲載等の実施 企画との連携メニュー等の相互の活性化に向けた協議	実施	実施			

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

II文化事業目標(2) 5 市民協働及び地域とのネットワーク構築	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		説明	評価	
		達成指標	目標	実績	実績		自己評価	行政評価
11 近隣教育機関との連携	近隣施設等との連携 (1) 横浜山手芸術祭への参加	■横浜山手西洋館ユースギャラリーの実施 内容:市立北方小学校児童作品を会議室に展示 期間:平成31年2月(10日間)	年1回	年1回	■横浜山手西洋館ユースギャラリー 2月16日~22日(6日間) 工作、絵画など北方小学校児童の作品55点を会議室で展示 ・観覧者数 187人	・横浜山手西洋館ユースギャラリー 2月16日~22日(6日間) 工作、絵画など北方小学校児童の作品55点を会議室で展示 ・観覧者数 187人	<p>・ミニ・ピリオパトルについて近隣の北方小学校をはじめ幅広い広報活動を行いました。</p> <p>・ユースギャラリー、ハロウィンウォーク2019への参加により、山手・丘公園エリアの施設との一体感を醸成しました。</p> <p>・クリスマス茶会開催にあたり、抹茶と菓子に地元企業2社の現物協賛を受けました。 ・テーマ展示Ⅱのテーマに野球があることから、プロ野球開催時期に横浜スタジアム最寄駅である「日本大通り駅」へのポスター掲出を実現しました。</p> <p>・横浜みなとみらいホールとの共催でサロンを会場としたコンサートを開催しました。記念館の建物の魅力についてのお話をプログラムに組み入れ、展示もご覧いただくことにより、コンサート会場に留まらない施設の紹介ができました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・ミニ・ピリオパトルを継続して積極的に取り組んだことを評価します。小学校にてデモンストレーションを行う等、普及に取り組みました。また、中高生をゲストとして参加させるなど新しい企画にも取り組みました。これは、継続した普及活動の成果であり、子どもの読書推進の一旦を担っていると評価します。</p> <p>・横浜山手西洋館や県立神奈川近代文学館への協力や事業連携を通じ、継続した連携関係が構築されたことを評価します。また、ボンパドウルやホテルニューグランドとの連携も継続され、大佛次郎記念館に関連した商品の継続販売という協力を得ることができました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・12月にNPO法人横浜シティガイド協会と締結した覚書をきっかけに、新たな層へ大佛作品や記念館を知ってもらい、興味を持つことに繋がるような活動や企画の検討を行うことを期待します。</p> <p>・未達となったボランティア組織編制については、ボランティア組織が施設に果たす役割や目的を整理したうえで、方向性の再検討を行うことを望みます。</p>
	15 (2) 山手西洋館との連携	■横浜山手西洋館ハロウィンウォークへの参加 ■山手通信への情報掲載	実施	実施	・「永遠に続く魔法の丘 ハロウィンウォーク2018」参加 10月28日(日) 入館者数 4,270人 ・山手通信 掲載6回	・「永遠に続く魔法の丘 ハロウィンウォーク2018」参加 10月28日(日) 入館者数 4,270人 ・山手通信 掲載6回		
	(3) 県立神奈川近代文学館との連携	■神奈川近代文学館との観覧者の相互割引の継続	実施	★	・入館料の相互割引実施の継続	・入館料の相互割引実施の継続		
	近隣商店街等との連携	■近隣商店街等とのつながりを大切に、関係性を深める。ポスター掲示や商品提供等の協賛の依頼	実施	実施	・「大佛次郎×ねこ写真展2019」にホテルニューグランド、ボンパドウル、元町霧笛楼に加え、新たに小港町にある美濃屋あられ製造本舗から賞品協賛 ・「クリスマス茶会」に対して本牧・栗田園、元町香炉庵から協賛 ・横浜高速鉄道(株)の「元町・中華街駅」での通年ポスター掲示、「日本大通り駅」でのテーマ展示Ⅱのポスター掲示およびSNSによる広報協力が実現 ・隣接のKKRポートビル横浜および元町霧笛楼に入館割引券の備え置きを依頼し、回遊観光を狙いました。	・「大佛次郎×ねこ写真展2019」にホテルニューグランド、ボンパドウル、元町霧笛楼に加え、新たに小港町にある美濃屋あられ製造本舗から賞品協賛 ・「クリスマス茶会」に対して本牧・栗田園、元町香炉庵から協賛 ・横浜高速鉄道(株)の「元町・中華街駅」での通年ポスター掲示、「日本大通り駅」でのテーマ展示Ⅱのポスター掲示およびSNSによる広報協力が実現 ・隣接のKKRポートビル横浜および元町霧笛楼に入館割引券の備え置きを依頼し、回遊観光を狙いました。		
	(1) 元町商店街(元町SS会)との連携 ボンパドウルに、大佛次郎記念館活性化プロジェクトから生まれた商品の販売継続を働きかける。	■冬季限定「バンピコンリキョールのごほうびサバラ」継続販売を働きかける。	実施	実施	・ボンパドウル元町本店「ピコンリキョールのごほうびサバラ」の販売実施 12月1日~1月31日	・ボンパドウル元町本店「ピコンリキョールのごほうびサバラ」の販売実施 12月1日~1月31日		
	(2) 元町商店街(元町SS会)との連携 ボンパドウルとポスターの相互掲示を継続	■ポスターの相互掲示の実施	実施	実施	・ボンパドウル元町本店での展示通年ポスター掲示 ・ポスター掲示に替えてTwitterにて紹介	・ボンパドウル元町本店での展示通年ポスター掲示 ・ポスター掲示に替えてTwitterにて紹介		
	(3) 元町商店街(元町SS会)と広報連携について	■ホームページでの相互リンク設置による広報協力の継続	実施	実施	・ホームページの相互リンクの継続	・ホームページの相互リンクの継続		
	(4) 横浜高速鉄道(株)との連携	■駅構内ポスター掲示 ■みなとぶらりチケットの団体割引適用	実施	実施	・元町・中華街駅で通年ポスター掲示を実施、日本大通り駅でのテーマ展示Ⅱのポスター掲示(再掲) ・みなとぶらりチケット提示による入館料の割引実施 ・Twitterによる広報協力(再掲)	・元町・中華街駅で通年ポスター掲示を実施、日本大通り駅でのテーマ展示Ⅱのポスター掲示(再掲) ・みなとぶらりチケット提示による入館料の割引実施 ・Twitterによる広報協力(再掲)		
	(5) ホテルニューグランドとの連携 大佛次郎ゆかりの「天狗の間」宿泊プランの継続を働きかける。	■宿泊プランの継続を働きかけ	実施	実施	・ホテルニューグランド「天狗の間宿泊プラン」販売を継続 ・当館職員による「天狗の間」見学会実施	・ホテルニューグランド「天狗の間宿泊プラン」販売を継続 ・当館職員による「天狗の間」見学会実施		
	(6) その他連携	■霧笛楼でのちらし配架働きかけ	実施	実施	・元町霧笛楼および香炉庵のパンフレットを館内で配架 ・西区ハマのウォーキングフェスティバル、平成30年市民が選ぶ横浜10大ニュースへの協賛	・元町霧笛楼および香炉庵のパンフレットを館内で配架 ・西区ハマのウォーキングフェスティバル、平成30年市民が選ぶ横浜10大ニュースへの協賛		

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

II文化事業目標(2)	評価項目	H30年度計画		実施状況		評価	
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価
5 市民協働及び地域とのネットワーク構築	20 研究者団体の文化活動への場の提供	■大佛次郎研究会及びフランス経済史研究会との施設及び資料利用に関する協定継続	実施	実施	チェック ・大佛次郎研究会との覚書による協力関係を継続 ・フランス経済史研究会との協力関係を継続		自己評価 ・課題であったシティガイド協会との覚書の締結ができました。 行政評価 (評価は前ページに記載)
	市民協働 (1)NPO法人横浜シティガイド協会との連携	■記念館へのツアーを促進のために協力関係を模索	実施	実施	・シティガイド協会のツアーについては団体料金を適用の上、ガイドは入館無料とする覚書を12月に締結しました。		
	22 (2)記念館ボランティア組織編制 展示作業、イベント開催のお手伝い依頼スキーム作成 ボランティア登録にあたり、一般公募及びカルチャースタッフ経験者へ周知	■ボランティアメンバーの拡充	実施	未実施	・横浜美術館デジタルガイドの仕組みをヒアリングするなど情報収集にとどまりました。(未達)		
							【課題】 ・シティガイド協会との具体的な連携およびボランティア組織の検討について検討を続けます。

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

文化事業目録(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	実績		自己評価	行政評価
6 広報・プロモーション活動等の推進	広報よこはま、地域のタウン誌、新聞紙面等による広報活動を継続。またSNS等を活用したプロモーション活動を行う。 (1)記念館広報(紙媒体) 年間スケジュールチラシの配布 (2)記念館広報(紙媒体) 山手通信への情報提供 (3)記念館広報(紙媒体) イベントちらしの作成(年3回、各回8,000枚) (4)記念館広報(紙媒体) アートナビへの掲載 (5)新聞等掲載 市政記者発表、広報よこはま中区版への情報掲載依頼、タウンニュース中区・西区版への情報提供の実施	□年間スケジュール(3か月スケジュール)の発行 発行回数	年4回	年3回	C	・年3回発行(未達) ・イベント開催時期との兼ね合いで7月、11月、2月の3回発行となりました。 ・山手通信へ情報提供(再掲) ・イベントちらしの作成 17件 ・ちらしは展示・イベントに応じて6,000~12,000枚を作成しました。 ・アートナビ情報提供 年3回 ・記者発表回数 10回 テーマ展示3回、開館40周年無料デー、和室特別公開、「天皇の世紀再読」講演会、ミニ・ビブリオバトル、クリスマス茶会、ねこ写真展2019の募集・開催 ・記事掲載件数(WEB含む)569件 ・積極的な記者発表を行い、広報に努めました(再掲)。	【成果】 ・タイムリーな記者発表に努め、目標を大きく上回る回数を達成しました。 ・昨年に引き続き、来館者サービスとしてWi-Fiを活用し、展示ケース側面に設置したQRコードを読み取ることでリンク先のYouTubeからエッセイ朗読の視聴ができるようになりました。 ・Twitterは継続的な発信に注力した結果、更新回数547回(前年度比336%増)、フォロワー数188人(前年度比190%増)となりました。 ・ブログについても目標更新回数を達成しました。	【評価できる点】 ・アプリ開発の検討の結果、実現可能な代替手段としてのQRコードを活用したYouTubeでの展示の音声ガイドの配信サービスの仕組みを試行したことを評価します。QRコードを読み取ることで、音声での説明を聞くことができるようになり、利用者サービスの向上が図られました。 ・昨年度は未達成だったブログの情報更新が目標を達成したことやケーブルテレビ等のテレビ局からの情報発信が目標の2倍以上になったこと、新聞等への記事掲載が増えたこと等、積極的な広報及びプロモーション活動を推進したことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・音声ガイドサービスを継続することは、利用者サービス向上に資すると考えられるため、継続にあたっての課題を整理する等、手法を検討することを望みます。 ・館紹介ビデオは、施設PRのツールとしてwebサイトで公開する等、さらなる活用の検討を期待します。
		□山手通信への情報掲載(再掲)	年6回	年6回 実施	B			
		□イベントちらしの作成	年3回 各回8,000枚以上	17回、イベントに合わせ6,000~12,000枚作成	A			
		□年3回全号に情報提供	年3回	年3回	B			
		□テーマ展を中心に記者発表(再掲)	年3回以上	年10回	A			
24 大佛次郎及び記念館紹介ビデオの放映	■28年度作成の紹介ビデオをエントランスで放映し入館者増につなげる	実施	実施	・日本語・英語の2か国語で開館時放映 ・夏にエントランスから館内にモニターを移設し、腰掛けてゆっくりと見ていただけるよう運用を変更しました。	・予約申込と同日にページ更新(再掲)(以下、再掲) ・ホームページ更新 52回(月平均4.3回) ・ブログ更新 79回(月平均6.6回) ・Facebook更新 79回(月平均6.6回) ・Twitterツイート数547回(月平均45.6回)			
25 ホームページを通じた情報発信及びSNSを活用したプロモーションの実施(ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、ヨコハマ・アートナビ、ヨコハマ・コードアートナビ等を活用)	■和室、会議室の利用状況・空き状況のページを円滑に運営	実施	実施					
	□ホームページ情報更新(再掲)	月3回以上	月4.3回	B				
	□ブログ情報更新(再掲)	月5回	月6.6回	B				
26 CATV等での情報発信	□CATV等TV局からの情報発信	年3回以上	TV8回 ラジオ10回	A		テーマ展の情報発信のほか、ねこ好き作家としての紹介や濱明朝をテーマにした取材がありました。 □TV年8回、ラジオ年10回		
27 その他の工夫	■テーマ展示 I に合わせ、YouTubeを利用した音声案内を本格稼働する	実施	実施	・テーマ展示 II において、ギャラリ内のQRコードを読み取りYouTubeのスポーツエッセイの朗読を聞くことができる仕組みを提供しました。(再掲) ・テーマ展示 III において、2か所にカセットデッキを設置し大佛次郎の講演会の肉声を聞く仕組みを提供しました。				

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

文化事業目標(2)	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		説明	評価	
		達成指標	目標	実績	実績		自己評価	行政評価
7 後世に継承するための記念館の活性化	大佛次郎作品の刊行協力等、大佛作品を読める環境整備(1)既刊の販売協力	■「500匹と暮らした文豪 大佛次郎と猫」をはじめ自著や関連書籍の販売協力が普及に努める。	実施	実施	チェック	・現行の発行書籍についてショップで販売 ・出版社を訪問し復刊について相談 2社 ・テーマ展示Ⅱ、Ⅲに関連するブックレットの発行 2冊	【成果】 ・出版社2社を訪問し、大佛次郎作品の復刊・再版について相談をすすめました。 ・新たな出版物の刊行が難しい状況を踏まえ、スポンサーと話し合いと講演録をブックレットの形態で発行しました。 【課題】 ・大佛作品の普及を目的として、電子本配本の可能性の検討のほか、紙での出版への働きかけおよびブックレットの形態での発行を継続します。	【評価できる点】 ・施設での大佛作品の販売を継続するとともに、出版社への大佛作品の復刊、再刊等の働きかけを通じて、作品を後世に伝え、読んでもらえる環境の維持に努めた点を評価します。 ・ハロウィンウォークへの参加等、地元と連携しながら、施設周知のきっかけに繋がる活動を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・今後も大佛作品の後世への継承という観点からの取組を継続して行ってください。
	(2)その他	■単行本未収録の作品の刊行や絶版本の復刊、所蔵資料を活用した出版への働きかけ ■ミニ冊子「鎌倉通信」の継続販売(追加実施)(再掲)	実施	実施				
	フランス関連資料の活用(1)企画展や常設展内展示コーナー等での展示	■収蔵品展で展示活用	実施	実施		・収蔵品展の猫コーナーで洋書の猫の本14冊を展示		
	(2)横浜フランス月間への参加	■1930年代フランス映画関連の雑誌のミニ展示	実施	実施		・「大佛次郎の雑誌でたどる1920年代フランス映画」6月12日(火)～7月8日(日) ・大佛次郎が愛読した「Cinemazine」など1920年代の仏映画雑誌や映画「女だけの都」ポスターなど約20点を展示		
	若者の来館促進 スタンプラリー等参加	■キャンペーンイベント等のスタンプラリー拠点に参加	実施	実施		・ミュージアム・ミッション2018(再掲) 7月21日(土)～8月31日(金) 参加者 85人 ・ハロウィンウォーク 10/28(日) ・山手ユースギャラリー2/16-22	・神奈川県博物館協会主催の「ミュージアムミッション2018」および山手西洋館主催の「山手ハロウィンウォーク」へ参加し、日頃は記念館へ足を運ばない層の来館を促進しました。 ・ハロウィンウォークは天候にも恵まれ一日の入館者数が年度最多の4,270人を記録しました。近隣施設と連携することで、山手地区の一体感の醸成に寄与するとともに、施設周知につながりました。	
	「大佛次郎記念館活性化プロジェクト」成果継承	■ボンパドゥル、ティールーム霧笛での企画商品販売継続(再掲) ■「ねこからの挑戦状」継続配布(追加実施)	実施	実施	(計画書に記載なし)	・ボンパドゥル「ピコリキュールのごほうびサバラン」の販売(再掲) ・ティールーム霧笛「大佛フラッペ」の販売(再掲) ・2/26の「ねこ写真展」の会期中配布		
	子どもたちが記念館に集う取組(再掲)	「3 各種文化的事業の実施」及び「5 市民協働及び地域とのネットワーク構築」記載内容と同						
	記念館オリジナルキャラクター「くらまくん」の露出による記念館のイメージアップ	■鞍馬天狗シリーズ復刊を記念した缶バッジ配布キャンペーンの継続	実施	実施		・バッジの継続配布	・団体入館者に対する説明を積極的に行い、目標回数を大きく上回る回数を実施しました。	
	スタッフの展示案内によるリピーターの確保(月5回以上)	□団体入館者に対する解説	年40回以上	82	A	・団体入館者に対する解説 計82回(展示解説、ミニミニトークを含む) ・団体客のニーズに合わせて説明の長さや内容を変えての解説が好評でした。		
	愛猫家の側面に着目した、猫を活かした企画展開(再掲)	「3 各種文化的事業の実施」記載内容と同						
	収入増及び健全な財務体質の実現に向け、個別事業評価システムによる自己評価、文学懇話会(会員構成・メディア・有識者等・市)の意見、年次評価等を活用したPDCAサイクルの構築	■個別事業評価システムによる自己評価の実施 □文学懇話会の開催 ■年次評価の実施(自己評価、行政評価、外部評価)	随時実施	随時実施		・個別事業評価システムにより、事業計画から終了報告まで收支を含めた事業毎の執行管理を適切に実施 ・年2回実施 ・会員10人中5名が新しいメンバーとなりました。	【課題】 ・文学懇話会について、会員の半数が入れ替わり、また権利継承者の出席が今後も難しいことも考慮し、効果的な運営について検討します。	
	その他	■ミニ冊子「鎌倉通信」の継続販売 ■大佛次郎記念館開館40周年記念デー(再掲)	実施	実施		・継続して販売		

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

H30年度計画	達成指標	目標	実績	実施状況	評価	
					自己評価	行政評価
1 観覧及び市民・市民団体の教養活動のための施設の提供	1 観覧施設の提供	■大きな事故なく開館	実施	実施	・事故0件 ・和室25.3%(未達)、会議室47.6% 和室、会議室ともに29年度比で利用率が増加しました。和室利用率が目標値には届きませんでした。 ・ねこ写真展の開催期間中は和室を半額で貸し出すキャンペーンを実施し、利用率の向上に努めました。 ・レファレンスサービス(再掲) 年間89件 ・年間入館者数:29,127人(昨年度比4,635人増) 一日平均の入館者数:98名(昨年度比16人)	【評価できる点】 ・リピーターの定着を図ったほか、撮影利用等にも対応し、会議室の利用率が目標を10%以上上回ったことを評価します。また、和室の利用率向上のための半額キャンペーンなど、新たなサービスを打ち出した点を評価します。 ・年間入館者数が29,000人を超え、目標を10,000人以上上回ったことを高く評価しており、これまで行ってきた様々な取組が入館者増につながった一つの成果の表れたと考えます。 ・入館料の決済手段としてsuica対応を継続したことに加え、新たにPayPayを導入し、利用者の利便性の向上を図ったことを評価します。 ・和室入口への踏み台設置等、利用者の意見を取り入れ、より使いやすい施設を目指したことを評価します。 ・個人情報漏えい件数がゼロ件など、コンプライアンスをはじめとする組織運営もしっかりとなされています。
	2 和室及び会議室の積極的な貸出、レファレンス対応(広報協力、感想・ご意見の収集、ホームページでの空き状況情報提供サービス等)によるリピート利用促進等	□目標利用率 和室 30%(日)	25.3%	C		
	□目標利用率 会議室 33%(日)	47.6%	A			
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	3 入館者数の増	□年間入館者数 19,000人	29,127	A	・ねこ写真展期間中にメルマガ募集キャンペーンを実施 ・メルマガ登録数113人(前年度比166%増) ・メルマガ発行 7回 ・メルマガジンを施設の紹介を行いました。	【成果】 ・メルマガは展示やイベントに合わせて計画的に配信しました。内容も展示やイベント案内に加え施設紹介も掲載しました。またメルマガ登録キャンペーンを実施し、登録者数が大幅に増えています。 ・来場者アンケートやお客さまの声に迅速に対応しました。 ・入館料支払とショップの買い物に、電子マネーSuica、PayPayを導入し、お客様の利便性を高めました。
	4 施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページでの撮影等の利用案内の掲載等)	□レファレンスサービス対応数(再掲) 50件	89	A		
5 アンケート等による利用者ニーズの把握(和室無料公開の継続、会議室の学校関係の利用の促進、利用者へのアンケート及びインタビュー調査の実施等)	4 施設貸出の御案内、撮影等の貸出利用案内強化による利用促進(貸出施設の案内、ホームページでの撮影等の利用案内の掲載等)	■メールマガジン登録者増加のためのキャンペーン	実施	実施	・来場者アンケートは翌月はじめに集計し、館内で情報共有。 ・施設運営の課題について、速やかに職員・財団・横浜市と情報共有し解決をはかるようにしました。 ・ねこ写真展期間中にアンケートキャンペーンを実施し、回答した方にプレゼントを用意することで回収数アップをはかりました。 ・ブログやTwitterで施設設備や特徴ある利用の紹介を随時行いました。	【課題】 ・和室利用率が目標数値に届きませんでした。ねこ写真展期間中の「和室半額キャンペーン」について一定の手ごたえがあったため、来年度は広報を積極的にを行い、周知に努めます。
	6 要望・苦情への対応(要望・苦情の館内・財団・市との適切な共有と対応)	■メールマガジンによる施設案内(追加実施)	実施	実施		
	7 案内・説明表示の外国語表記対応	■来場者に対するアンケートを実施。月毎の集計を行い、館内スタッフに迅速なフィードバックを実施	実施	実施		
8 展示解説や団体向け解説を実施(再掲)	8 展示解説や団体向け解説を実施(再掲)	■改善事例をホームページ、SNS等で情報発信	実施	実施	・団体入館者への解説実施(再掲)82回(展示解説、ミニモニターを含む) ・お客様に興味に沿った説明を行うよう、良いコミュニケーションを取りながら解説を行いました。	【更なる取組を期待する点】 ・和室の利用率が目標を下回りました。引き続き利用の向上に向けた積極的な取組をひとつひとつ着実に実施することを期待します。 ・利用者サービス向上の視点から、きめ細やかな対応の継続及び改善検討の視点を持ち続けることを期待します。
	9 Wi-Fiアクセスポイントの適切な運用	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施		
10 電子マネー決済の適切な運用	10 電子マネー決済の適切な運用	(計画書に記載なし)	(計画書に記載なし)	実施	・Wi-Fiを活用した展示ガイド(You Tube)にリンクした音声案内を実施しました。10月より2FギャラリにWi-Fiを利用したウェブカメラを設置し、監視環境を整えました。 ・Suicaの対象拡大およびPayPayを導入し、お客様の利便性を高めました。	・入口にカプセルトイレを設置し、親しみやすさを演出しました。
	11 施設の魅力を向上	■調度品類を修繕・更新	随時実施	随時実施		
12 オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施)	12 オリジナル商品の開発及び図書の販売(話題性のある商品の開発・販売、一般書店では手に入りにくい図書類の販売、文庫本へのオリジナルカバー付加、通販対応の継続とホームページでのPRの実施)	□オリジナルグッズ新規開発数 1アイテム以上	2アイテム	A	・ねこ写真展の期間に、新たにおこモチーフの文具、小物を仕入れ販売しました。 ・手ぬぐいを額装し購買につなげました。 ・ブックレット「I Love スポーツ、スポーツエッセイ集」「講演録 生地のままに」はサロンに見本を置き、試し読みからの購買を促進するしかけとしました。	【課題】 ・今後のショップでの決済手段として、問合せの増えてきたクレジットカードの導入検討が課題としています。
	13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組(大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映)	■「大佛次郎と猫」の販売メリットを享受するための積極的な宣伝の実施	実施	実施		
13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組(大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映)	13 エントランスでの利用促進及びサービス向上の取組(大佛次郎の愛用品展示、大佛次郎の紹介映像の放映)	■一般の書店で手に入りにくい図書類を販売	実施	実施	・エントランスにねこ動物のカプセルトイレを2種設置し、来館者へのサービス向上につなげました。 ・ショーケース内を随時入れ替えし、目を引くポップを掲出するなど魅力的なディスプレイに努めました。	

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	H30年度計画	達成指標		実施状況		実施状況 説明	評価	
		目標	実績	目標	実績		自己評価	行政評価
3 組織的な施設運営	<p>適切な運営組織体制と人材の配置(館長1、事務職員2、研究員2、研究室補助員1、特任研究員1、専門員1、カルチャースタッフ4)</p> <p>文学館の専門性、公共の施設として適切な人員を配置。職員的能力向上のため、研修を実施。(OJT、MBO、財団・市実施の研修、外部研修への参加)</p> <p>事務室、研究室共通業務に必要な資格取得に向けたバックアップの実施</p>	<p>□館内会議(研究会議、合同会議、企画会議)</p> <p>研究会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回</p> <p>■業務として必要な専門知識向上や資格取得のため、費用対効果も見極めながら、積極的な受講・取得を推進</p> <p>■展示会の企画立案、資料等の研究・整理等の能力を有する職員の配置(研究室)</p> <p>■全国文学館協議会会議に参加し、文学館同士の情報共有・連携強化の実施</p>	<p>研究員会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回</p> <p>実施</p> <p>配置</p> <p>実施</p>	<p>研究会議:月1回 合同会議:月1回 企画会議:月1回</p> <p>実施</p> <p>配置</p> <p>実施</p>	<p>・記載どおり実施。事業の調整・決定、中長期の企画立案、施設運営の情報共有の場となりました。</p> <p>・業務を行う上で有用な研修を積極的に受講しました。(ACY主催若手コーディネーター養成講座・施設管理者研修・公共建築物シンクハウスの対策説明会・公共建築物マネジメント研修・博物館長研修・広報研修・横浜市人権講演会・美術系専門人材研修・チームビルディング研修・広報ACY研修・クレーム対応研修等)</p> <p>・文学館等への視察も積極的に行いました。</p> <p>・6月全国文学館協議会総会・研修参加 2名、10月全国文学館協議会研修(北上市)参加 1名</p>	<p>【成果】</p> <p>・目標どおり実施しました。館内会議を通じて、2か所に分かれて執務する職員間の情報共有や施設運営の課題、方向性を確認しました。</p> <p>・積極的な研修への参加を促し、出張を伴う研修にも参加が増え、職員の専門知識向上や人的ネットワークの構築につながりました。</p>	<p>(評価は前ページに記載)</p>	
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	<p>個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施</p> <p>(1)個人情報保護 個人情報取扱マニュアルの作成と年1回以上の改定・見直し及び職場内研修の実施、個人情報の適切な取り扱いによる事故防止</p> <p>(2)情報公開</p> <p>(3)人権尊重 横浜市主催の人権講演会への職員の参加、職場内研修の実施、受付職員を対象とした接客研修の毎年度の実施</p> <p>(4)省エネルギー・節電 節電への取組、クールビズ及びウォームビズの実施と来館者への取組周知</p> <p>(5)ごみ 「ヨコハマ3R夢プラン」に基づく取組の実施、ごみの軽減化の取組、印刷・コピーの適切な節制、文書の適切な処分</p> <p>(6)市内中小企業優先発注 特別な専門性が必要な契約等を除く発注の市内中小企業への優先</p>	<p>■個人情報漏洩などに関する事故</p> <p>■業務計画書、報告書のホームページでの公開:実施、PDFのダウンロード</p> <p>□研修の実施</p> <p>■契約の見直しによる金額の前年度比マイナスを目指す</p> <p>■印刷・コピーの裏紙利用による古紙の減量化</p> <p>■裏紙利用の啓蒙と裏紙ストック箱の設置</p> <p>■ゴミ減量を視野にいれた展示方法の模索</p> <p>■特別な専門性が必要な契約等を除く発注についての市内中小企業への発注への努力</p>	<p>0件</p> <p>実施</p> <p>年1回</p> <p>前年度比マイナス</p> <p>実施</p> <p>実施</p> <p>実施</p>	<p>0件</p> <p>実施</p> <p>年1回</p> <p>実施</p> <p>実施</p> <p>実施</p>	<p>・事故0件</p> <p>・個人情報を含む書類の施錠管理、閲覧中は袋に入れることを徹底しました。</p> <p>・年1度の研修を実施</p> <p>・HPへの公開実施</p> <p>・研修へ参加 1名</p> <p>・電気料金については毎年度事務局主体での一括入札によるコスト削減を図っています。</p> <p>・セブランプをLED化</p> <p>・他館のちらしについては残数をチェックの上、受入枚数の調整を行い廃棄物の減量化をはかりました。</p>	<p>【成果】コンプライアンスについては、個人情報の取扱のルールを定め、全スタッフに徹底しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・不要な電気の消灯、印刷物の適正な枚数での発注、有料ごみを出さない工夫といった取組を継続します。</p>		

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	H30年度計画	H30年度計画		実施状況		実施状況	評価				
		達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価			
1 施設及び設備の維持保全及び管理	1 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■施設運営に支障がでないよう管理 ■館建設から40年経過し、建物、設備に劣化が進んでいるので、必要な修繕を実施するように調整 ■必要に応じ市と協議 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 非常用照明設備更新工事が横浜市により実施され、施設の安全な環境が整いました。 機械式警備機器の更新工事を実施し、防犯体制が強化されました。 		<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・管理を遺漏なく行いました。 ・施設および設備の課題点について、横浜市および指定管理者事務局と随時情報共有を行いました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化については、小さな不具合を看過せず予防的措置に努めるとともに、横浜市および指定管理者事務局と課題共有していくべきと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none"> ・1年を通じて、施設及び設備のきめ細やかな管理を行い、適切に業務を遂行できました。 【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。 			
	2 保守点検、備品管理、環境維持の実施 (1) 備品の物品管理簿での管理、年度末の棚卸の実施等の実施による適切な管理 (2) 消耗品の適切な管理・購入による経費削減と発注事務の軽減 (3) 大佛次郎遺品類及び関係資料の適切な管理(日常的な確認・点検の実施) (4) 施設設備の不具合早期発見のための自主点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> □物品管理簿と現品との照合による棚卸 ■在庫管理 ■毎日2回の点検、記録、調整の実施 ■特別書庫内使用の出入庫表への記録 □年1回の燻蒸(再掲) □月1回の資料整理 ■必要な資料の修復実施 □不具合早期発見のため自主点検を実施 実施回数 ■自主点検した内容を財団事務局と情報を共有 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回 実施 実施 年1回 月1回 実施 月1回 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回 年2回 月1回 月1回 月1回 実施 月1回 実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・開館・閉館時に点検、記録、調整を実施 ・特別書庫内使用の出入庫表への記録の実施 ・2Fギャラリーにウェブカメラを設置し職員PCからの監視が可能になりました。 ・総合的有害生物管理(IPM)を導入し、職員全員がIPMを学ぶ研修を受講しました。(再掲) ・専門業者による書庫内防塵防微作業 1回、職員による作業を1回 実施 	B	A	B	B		
	3 適切な環境維持管理業務の実施 (1) 業務の基準の遵守及び見回りによる清掃の即時対応の実施 (2) 公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> □ゴミ、汚れ除去の点検 □管理区域内の植栽剪定作業委託による維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日1回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日1回 年1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理区域外の樹木についても必要に応じ公園管理者に連絡・相談を行いました。 	B	B				
2 小破修繕の着実な実行	4 小破修繕の取組(日常点検で把握した故障等への都度対応による修繕費等の支出抑制、財団のサポートによる効果的・効率的な修繕の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ■随時実施 □不具合早期発見のため自主点検を実施 月1回(再掲) ■修繕等の実施に際しては横浜市と情報共有し、迅速な対応の実施 ■実績をホームページ、SNS等を通じ積極的に情報発信(追加実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 随時実施 月1回 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・和室外壁防水工事を実施し、和室への雨水漏れをなくしました。 ・小破修繕の随時実施 男子トイレ洗浄水、和室・会議室鍵等の不具合交換 ・点検等の際には財団事務局施設担当者も立合い、情報共有を密に行いました。 	B				<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・管理を遺漏なく行いました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化に伴う不調・不具合については、定期的な点検等で早期発見に努めます。 ・早急に対応が必要な不調が見つかった場合は、財団事務局の助言を受けながら、必要な予算措置について検討し、横浜市とも相談して進めます。 	
3 事故予防及び緊急時の対応	5 事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施 (1) 全体管理について (2) 危機管理マニュアルの整備と必要に応じた改訂 (3) 職員及びホールスタッフによる館内の見回り・点検の実施 (4) インフルエンザ流行時のポスター掲示、鳥インフルエンザへの留意、ノロウイルス対応の準備と2次感染防止策の徹底 (5) 緊急時の連絡体制(財団事務局の必要に応じた派遣、関係各所との緊急連絡網の作成と緊急時の速やかな報告・相談の実施) (6) AED設置及び研修(消耗品等の定期的な更新・交換、財団主催の操作研修への全員参加)	<ul style="list-style-type: none"> ■施設運営に支障がでないよう管理 ■より実施に沿ったマニュアルに改定 ■周知ポスター掲示 ■人員変更ごとの改定 ■スタッフ全員が使用できるよう研修の全員受講 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 実施 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 実施 実施 実施 実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な管理を実施 ・危機管理マニュアルの改定 ・館内巡回を実施 ・2FギャラリーにWEBカメラを設置したことで職員PCでの監視ができるようになりました。 ・嘔吐処研修を実施形式で実施 	B				<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・2FギャラリーにWEBカメラを設置したことで、2Fの各室が在室のまま展示監視が可能な環境が整いました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。 	

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

IV維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		評価		
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 防災に対する取組	日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施 (1)危機管理マニュアルの適宜見直し及び改訂	■より実態に沿ったマニュアルに改定	実施	実施	チェック ・危機管理マニュアルの改定(再掲) ・伝達訓練、シェイクアウト訓練への参加 ・防災センターでの体験型研修実施 ・マニュアルなき訓練実施 2回 ・嘔吐物対応研修 1回	【成果】 ・管理を遺漏なく行いました。 ・防災センターでの研修や嘔吐物対応研修など実際に則した研修を新たに取り入れリスク対応意識を高めました。 【課題】 ・特筆すべき事項なし。	(評価は前ページに記載)	
	(2)避難訓練 自衛消防組織の結成、防災計画の作成、危機管理マニュアルに基づく年2回の避難訓練の実施	□防災訓練 実施回数	年2回	年3回				A
	(3)緊急事態に備えた飲料水、非常食、毛布等の備蓄	■在庫管理の徹底	実施	実施				

平成30年度 横浜市大佛次郎記念館 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

V収支	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H30年度計画		実施状況		実施状況 説明	評価	
		達成指標	目標	実績	実績		自己評価	行政評価
1	適切な収支構造及び収支バランス	適切な収支構造及び収支バランス	実施	実施	チェック	<ul style="list-style-type: none"> 適切に予算管理を行い執行 ・四半期ごとに予算管理を徹底 	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・適切に実施しました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。 	【評価できる点】 <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通じて、良好な収支バランスを達成できました。ショップ売上、施設利用料金収入が予算を上回った点を評価します。
2	指定管理料にのみ依存しない収入構造	指定管理料のみに依存しない収入確保の取組 (1)利用料金収入の確保 有料入館者増に向けた取組の実施	■「大佛次郎×ねこ写真展2019」のテーマ展示との同時開催による新たな入館者層の開拓	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「おさらぎ選書」広告掲掲載が4社から6社に増えました。 ・ねこ写真展 入場者数 4,610人(前年度+1,031人) ・ショップ売上については、猛暑の影響で夏季の売上が落ち込みましたが、ほぼ目標どおりの金額となりました。 ・ねこ写真展への賞品協賛が1社増え、4社になりました。 	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・「おさらぎ選書」の広告掲掲載を2社増やし、また発注先の見直しを行い、収支の改善を図りました。 ・ねこ写真展への協賛を1社増やし、入賞者への賞品にバリエーションを出すことができました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。 	【更なる取組を期待する点】 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き今年度も収支差額をプラスが発生しました。今後も効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した予算執行に努めてください。
		(2)おさらぎ選書への広告掲掲載、企画展の協賛依頼	□広告掲掲載	4社	6社	A		
		(3)ショップ売上目標の設定	□ショップ売上目標 目標金額	1,700,000円	1,757,705	B		
3	経費削減及び効率的運営努力	経費削減等効果的運営の努力 (1)発注、事務処理上の留意点 契約にかかる経費削減、支払い時の事務処理時間及び振込手数料の削減、計画的な発送処理による作業時間及び郵送経費の削減、廃棄物の削減	■在庫管理の徹底	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・電気29年度比△2.5%、水道同△7.7% 	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・超勤の事前申請の徹底、業務内容の見直しにより、超勤時間が減少しました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・特筆すべき事項なし。 	
		(2)施設、設備管理上の留意点 早期対応による設備の長寿命化の実現と修繕費の節制 省エネルギーのための取組と光熱費の節減(管理費の多くを占めている光熱水費を節約することで、コストの削減につなげる)	□電気・水道使用量	使用量 前年度比マイナス	前年度比△2.5%、 水道同△7.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用量 前年度比△2.5%、水道同△7.7% 	
		(3)コスト意識 職員の超過勤務削減、業務分担の平準化、業務の外注化等の促進、効率的で適切な勤務体制の実施	■下半期から経費執行の情報共有を館内職員で図り、弾力的な運用の実施	実施	実施		<ul style="list-style-type: none"> ・超勤の事前申請により仕事量と時間を意識しました。 ・業務内容の見直しを行い効率的な執務を目指しました。 ・30年度 超勤月平均時間 10.1H/月(前年度比△5.0時間/月) 	
			■必要ない電気・水道の利用を減らすための声かけの実施	実施	実施			

その他	評価項目 特記(提案事項要旨)	H30年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	実績	
					チェック	

評価	
自己評価	行政評価

総括	評価項目 特記(提案事項要旨)	H30年度計画		実施状況		実施状況 説明
		達成指標	目標	実績	実績	
					チェック	

評価	
自己評価	行政評価
30年度は開館40周年にあたり、前年度の生誕120年に続き記念年が連続しましたが、3つの展示を軸とした堅実な事業の実施および施設の運営に取り組みました。施設利用者数を含めた来館者数は、昨年度を上回る29,127人となり、開館40周年無料デーなどを通じて、大佛次郎記念館の魅力をお伝えすることができました。また文学館の使命である収蔵作品の調査、研究、普及についても目標に沿った取組を行いました。	1年間を通じて充実したテーマ展等の企画を着実に実施するとともに、安定的な施設運営を行いました。特に、平成28年度以降、入館者数が毎年増加しており、これまでの取組の成果が入館者数増という見える形で結実していることを評価します。読書はなれ等、厳しい状況はありますが、施設の使命として、大佛という作家の魅力により多くの人に伝え、後世に残していくことを今後も実現するために、引き続き入館者増に向け、新たな切り口の魅力ある展示企画について積極的な検討を行ってください。
30年度はWEBを活用した広報を積極的に展開しました。とりわけSNSにより切れ目なく情報を発信したこと、Twitterフォロワー数が2倍になるなどの成果がありました。出版をめぐる状況の厳しさは変わりませんが、引き続き出版社へ働きかけるとともに、ブックレット発行の形での展開を図りました。本の良さ、読書の楽しさを伝える事業としてミニブリオトルを大事に育て、「新しい文学館像」の在り方として、地域や学校の図書館との連携も今後は視野に入れたと考えています。施設利用率の点では和室の利用が目標に届きませんでした。引き続き利用案内に努めていきます。	また、立地を生かし、今後も地元との連携を推進することで、施設の周知や魅力向上に資する取組の強化にも期待します。和室等の施設利用率向上の課題はありますが、今後ともこれまでの取組を継続、深化させることで、魅力ある文学館としての機能、役割を果たしてください。